

# みやけの風

## 第 216 号

平成17年(2005年)3月26日(土)発行  
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター  
 発行責任者：上原 泰男  
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階  
 東京ボランティア・市民活動センター 気付  
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646  
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

東京では、昨日8回目となった、『三宅島帰島支援ボランティア活動事前研修会』を行いました。46名の参加者のなかには、昨年度まで三宅島の小学校で教えておられた方、各市区の職員や水道局にお勤めの方、生協や日赤の方々、そのほか多彩な顔ぶれでした。6月の派遣を希望される方もいるなど、息の長い帰島支援活動に心強いばかりです。

### みんなの声 避難生活に思う

三宅島島民は噴火によって、平成12年9月2日～4日のうちに、全島民避難命令を受け、4年半という長期にわたる避難生活を余儀なくされました。最初は3ヶ月から半年位と思って居りましたが、なんと、避難生活も現在に至った次第です。

それでも、避難生活が始まって直後から、東京ボランティア支援センターの呼びかけによって、飯田橋のセントラルプラザ10F会議室に島民が集まり、これからの避難生活をどう乗り切るか、話し合いが何回も繰り返し持たれました。そして、避難先で島民がそれぞれ組織化して、14年春の『三宅島島民ふれあい集会』の場で、支援センターのリーダーの上原泰男さんから島民の手にバトンが渡り、『三宅島島民連絡会』が発足されました。そして毎月一回、島民同士の話し合いを行って、前進するよう頑張って参りました。

最初から、支援センターの力は大きく、私はボランティアの暖かい支援の心から学ぶことが多くあり、感謝に堪えない思いです。

今もって避難解除後も、上原さんたちは2月1日からボランティアの人たち大勢さんで三宅にわたり、高齢者たちの破壊された庭や家屋の手入れのお手伝いに行ってくださいているようです。そのお蔭様で大助かりを喜んでいただいております。

上原さんには船上でお遣いして様子を伺い

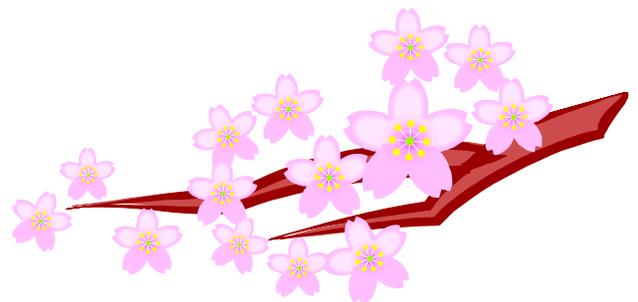
ました。赤い帽子をかぶって一目でボランティアだとわかるようにとお気を使っているようです。

今年は、火山ネットフォーラムを三宅島で行うと聞いております。遠く北海道や長崎の島原からも、島民を支援するため、参加応援して下さる予定のようです。本当に大勢の人たちにお世話になり、三宅島では学べない沢山のことを知り、また、暖かい助け合いの心が如何に大切かを知りました。そして、前向きに生きる努力が大切で、それが健康維持になるような気がしています。

私は、この避難中、沢山の催しに参加させていただき、大勢の人たちにお世話になり、お礼の言葉も申し上げようもない程です。4年間の避難生活は、私にとりまして、人間として謙虚に手を差し伸べ、大きな輪となって生きなければならない事を学んだように思います。

都会で大変お世話になった皆様に心から厚く厚く御礼申し上げます。三宅島はこれから、火山ガスと共生ですが、前向きにできる範囲で頑張っていきたいと思っています。

(葛飾三宅会 五十嵐文子)



## 三宅島帰島支援ボランティア活動報告

活動日 : 2005年 3月 8日

報告者 : 平嶋 和人

班名・名簿 : C班 井村 中村 平松 釜鳴 戸川 母袋

< 活動内容 > 様宅での作業 ススキなど刈り込み

< 感想・等 >

平嶋 : 全島避難から4年半ぶりに戻った家は無事だったが、家の裏手の畑はススキなどがはびこり無残な有様になっていたという。栗の木、夏みかん、アロエなど姿を消したり、立ち枯れたりしている。家に戻ったからには、再びもとのように戻したいとの思いからセンターへの派遣依頼となったのだろう。

さんから本日の目標を立ち枯れた栗の木までと言われススキの刈り込みスタート。全て雑草に侵食されていたと思ったが、ススキを刈り込んだ先に明日葉の無事な姿を目にした時は感動してしまった。

三宅の島に昔からはえていた植物は生き残り、後から植えた植物は生き残れなかったのだ。島の皆さんのこれからの姿が思い浮かび、少しほっとしたのだった。みんながんばれ! さんがんばれ!

井村 : カヤがうっそうと茂っている山の斜面は、最初見た時、カヤ林かな? と思ってしまったが、実は畑であった!

ここを刈り込んで元の畑にする作業は、正直、手作業では限界があると思うが、

さんとお話しながら、休み休みの作業で、何とか開墾の一步目が踏み出せたかな、という感じ。パッションフルーツの実がなるまで、是非がんばって欲しい。

平松 : 斜面一杯のカヤを前に、今日刈り込みをして欲しい地点を指定され正直できるか不安であった。不安は見事に的中



し、目標を達成することは出来なかったが、作業に さんも一緒になって参加してくれ、休憩時には大変な境遇にもかかわらず気を使って頂き大変嬉しかった。噴火の前の状態に戻るまで、是非がんばって欲しいと思う。

戸川 : 4年半という年月は島民だけでなく、島民の農場もまた過ごしていたのだなと感じた。「ああ、お前生きていたのか。よく生きていたなあ」。カヤにもまれながらも何とか芽を出していたユリを見て、 さんがふともらした言葉。嬉しかったのだと思う。そのさんの笑顔がまた僕を嬉しくしてくれた。

釜鳴 : さんに最初に「本日の目標」を聞いた時は、膨大な量だったが、あまりたいへんだとは思わなかった。しかし、実際やってみると、根が深いカヤばかりだった(>\_\_<)直径1Mくらいのカヤを根から掘り起こすのも大変だが、地上には細い茎が出てるだけのカヤも根が横に伸びていて、結構たいへんだった。

さんとお話もたくさん聞けたのもよかった。中学校の国語と美術の先生をなさっていたそう、お話がとても聞きやすかった。80歳になるそうだが、一緒にカヤ刈りをやられるくらい元気で、健康そのものという方だった。今回の活動で、少しでも島民の方の心の支援になれば、これにまさるものはないと思った。